

第42号

2019年9月1日

○発行  
650-0004  
神戸市中央区中山手通  
7丁目25-38  
神戸真生塾広報誌編集係  
TEL (078) 341-5897  
FAX (078) 341-8239  
E-mail: kouhou@kbsheinsei-j.org

○振替口座  
郵便振替01100-8-18680



## 「私があなたがたを愛したように、 あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

ヨハネによる福音書第15章12節  
児童養護施設神戸真生塾 前施設長 富川 和彦



この度の機関紙「愛」への寄稿を依頼された時に、神戸真生塾で機関紙を創刊しようと話し合った頃のことを思い浮かびました。

1995（平成7）年1月に発生した阪神淡路大震災で、児童棟崩壊や他の施設にも大きな被害を被ったのですが、この復旧対策を進めるに当たり、当時の理事長 故今井鎮雄先生より、「建物の復旧もさることながら、神戸真生塾の将来像を検討し、その延長線上で建物の復旧も考えなさい。」との指示が出されたのでした。また、施設職員だけでなく、関係の知識者も交えて検討するように。とのご指示を出されたことであります。早速、各施設からそれぞれに

担当職員を選び、「神戸真生塾将来像研究検討会」を立ち上げ、メンバーには神戸大学工学部建築学科安田教授の研究室より末包助教授と、卒業生で門下生であった中山氏を派遣下さることとなって、再開発の検討が開始されたのであります。

このあたりの事柄については、改めて今後の記録で詳しく残して行くこととしますが、この研究検討会において、神戸真生塾で機関紙を是非発行しようとのことが決定されたのでした。機関紙の名称もすぐに「愛」と決まり、創刊号が2005（平成17）年6月1日に発刊されました。実は永い神戸真生塾の歴史の中で、機関紙は既に1900（明治33）年6月に月報として創刊されているのです。その後、職員が交代で編集者となり、今日まで延々と休まず「愛」が発行され続けて参りましたが、神戸真生塾の職員の一一人の努力の賜物として、今日もなお「愛」の創刊時代の心

意気が受け継がれて、持続されて来たことには、本当に大きな感慨を抱かずにはおられません。世間では、あらゆる組織や機関が機関紙を出されていますが、数少ない児童福祉施設の活動や、子どもたちの生活が、近隣の方々や、広く社会に報告できるといふ、施設の開放的な姿勢が、近隣の皆様や、関係者の皆様からの理解を得られ、また、愛されるに相応しい役割を果たして行くことになると思えます。施設が閉鎖的な時代もありました。しかし、今後はもっと開放的で、どんなことでも発信して行ける施設であって欲しいと強く願う者です。

一方、善良な市民を巻き込んだ悲惨な事件が相次いで報道されています。こともあろうに、幼い児童が巻き込まれた事件が続いています。被害に遭った保護者の悲痛な叫びを私たちはその受け止めるすべを知りません。いやな社会環境が生まれてきている事実には、われわれの施設にお預かりしている子どもたちの安心と安全の保障が如何に大切な事かを、今もって知らしめられていないことだと理解せねばなりません。凶悪な犯罪者が身近に存在していると言うこと

では無く、子どもの養育環境がますます悪化していることへの認識が大切であると思わざるを得ません。交通事故も例外ではありません。

昨年度、国より「新しい社会的養育ビジョン」が提唱されて以来、関係機関、各所が新たな子育てについて議論が深められています。日本の歴史的な子育てを振り返って社会的養育の在り方が見直されているのです。

子どもたちの育ちを、如何に見守って行くのか。容易にその答えが得られませんが、大切なのは、子どもたちが日々笑顔で生活できるような「愛」のある生活環境の創生です。惜しき生活環境の創生です。惜しき意見を出し合って、互いに知恵を絞りあって行きたいと強く願う者であります。

此の度、私はこの永い歴史を持つ神戸真生塾の法人理事長のお役目を引き継ぐことになりました。大切な役割を担って参りますが、職員の皆様や関係各位により、深いお礼を申し上げ、大きな御支援を賜り度く、強くお願い申し上げます。



# 2018年度 事業報告

2018年度も、神戸真生塾の子どもたちは日々神様の祝福と導きによって元気に無事に過ごすことができました。感謝です。また、地域、学校を始め関係機関の皆さまの温かい支援によっても、お陰様で、子どもたち一人ひとりが大きく成長し、新しい年度を迎えることができています。全てに感謝し厚く御礼申し上げます。

また、何よりも、神戸真生塾の7つの事業の中に在って、子どもたちを養育支援下さった職員一人ひとりの働きに対しても敬意を以って深く感謝申し上げます。

2年前に厚生労働省より発表され推進されている「新しい社会的養育ビジョン」を受け、社会福祉施設の組織力と経営力の強化が事業の基底として最重要課題であると示されました。そのことを受けて当神戸真生塾の各事業所の運営の見直しを進めてまいりました。その中で、今日の社会の課題となる子どもを取り巻く環境についての支援事

業を進める一年とすることができました。保育所から幼保連携型認定こども園へ移行した「真生きらきら保育園」では乳児院、児童養護施設の子どもたちも1号こどもとして毎日通うようになり、連携が強化されています。また、里親支援事業においては乳児院、児童養護施設、子ども家庭支援センターの連携が深まりつつあります。

# 2019年度 事業計画

## (1) 乳児院(真生乳児院)

理念を「愛を育む」とし、「創立時の施設長矢野毅が残した墓碑には「人がその友のために命を捨てるといふ、これよりも大きな愛はだれも持っていない。」(ヨハネの福音書 第15章13節)が刻まれています。」

真生乳児院では、まずこの愛を大切にするため、すべての根源でもある愛着形成に力を注ぎます。十分に愛された体験がその子どもたちの後の人生に大きな影響力を与え、自分自身を愛する事はもとより、自分が愛されたように他者を愛する気持ちが育まれるのです。

## (2) 児童養護施設

(神戸真生塾)

昨年7月に制定された「社会的養育推進計画」が、各都道府県に於いても、更に具体的に展開し押し進めることが確認され、以下の4項目のように、社会的養育児童の養育については、児童の更なる権利擁護と人権擁護が明確な養育方針となりました。

①すべての児童養護施設は、子どもを権利の主体として、地域のニーズを把握し必要な取り組みを積極的に進め、すべての子どもの最善の利益を保証します。

②権利侵害の問題の深刻さを知る私たちは、子どもの権利擁護のため積極的に活動していきます。

③社会が求める施設のあり方について、様々な関係者と意見交換し、何より子どもたちが望む施設を目指します。

④一人ひとりの個性を尊重した個別的な関わりを大切にし、継続的かつ一貫した支援を追求します。

以上の通り、施設内児童虐待の撲滅は我々児童養護施設に繋がる関係者の、当施設の大きな課題であり、目標となります。

## (3) 児童家庭支援センター

(ロータリーこどもの家)

2019年度は、法人内の他機関多職種連携を強め、地域の子育て支援や里親支援をより質の高い、神戸真生塾の強みを生かしたものとブラッシュアップさせていきたいと思っております。また、子どもと子育て家庭に安心・安全な地域作り、地域社会が子どもを育てるシステム作りを目指し、近隣の子ども食堂の支援やハチミツ作りプログラムを活用して地域とのつながりを強めていきます。

## (4) 幼保連携型認定こども園

(真生きらきら保育園)

幼保連携型認定こども園に移行して2年目を迎えます。今年度は清風幼稚園の閉園に伴い園舎の改修工事を行います。神戸市内、特に中央区はまだまだ待機児童数が減少しない地域であり、神戸市立山の手小学校前の旧気象台の場所に大規模マンションが造成中であり、子どもの数が減少しないエリアであります。神戸市からも既存の施設を最大限に使っての2020年度からの定員増が期待されています。単なる利用定員の増を考

えるのではなく、地域の子育て支援センターとしての役割を中心に地域のニーズに応えるべく、将来像を検討していきます。

## (5) 児童自立生活援助事業

(神戸市児童自立援助ホーム 子供の家)

当ホームは市の指定管理と言う事もあり、他ホームよりは運営のしやすさはあるものの、入居する青少年たちは重篤かつ複合的な課題を抱えており、本来の「就労自立の見通しがある青少年の支援」から、「高度な専門的知識を必要とする青少年への支援」へと変化してきました。職員育成のための専門的な研修の場も少なく、関連機関との連携が不十分なため、複合的な課題を抱える青少年たちへの関わりが非常に難しくなっています。

指定管理業務と言う特質を生かし、自立支援策の中で他の社会的養育関係施設や関連機関との連携を重視しながら、年齢の高い、行き場のない子どもたちを社会の枠の中で社会的な自立を図ることに寄り添い、施設だからこそできる良さを発揮していけるよう努力していきます。

児童養護施設 施設長  
上杉 徹



# 創立記念お祝い会

神戸真生塾は129年前の5月23日に創設されました。今年は、少し早い5月19日の日曜日に神戸真生塾の創立129周年の感謝礼拝、お祝い会ならびに墓前礼拝を行いました。

感謝礼拝では、子ども達も心静かに讃美歌を讃美し、上杉施設長のお話を聞いておりました。

その後、2階のホールで和やかにお祝い会が行われました。お祝い会は、神戸真生塾を巣立った子ども達も参加してきます。以前は、私が生まれる前に神戸真生塾で育った方々も来て下さっており、昔の神戸真生塾の様子を知る良い機会となりました。今年はこちら5年以内で退所し、大学に行ったり就職をした子ども達が増えてきています。すっかり子どもではなくなっている女性になっていました。創立記念日は、退所した子ども達が施設に遊びに来るきっかけにもなり、私達職員は、社会に出て成長した姿をみて安心することが出来る良い機会にもなっています。また、旧職員の方や来賓の方も来られ、子ども達が多くの人に見守られていることを感じる機会にもなっています。

会の中で、昔と今の神戸真生塾の様子をスライドショーで見ました。阪神淡路大震災で建物にダメージを負い、大々的

に改築された為、建物は大きく変わりましたが、子どもたちの笑顔も職員の見守りも変わらないものでありたいと思います。

神戸真生塾の入り口近くに置かれている石碑には「愛」という言葉が刻まれています。毎年、創立記念日には、創始者の思いを私たちも変らず持ち続け、子ども達と生活していきたいと改めて感じることが出来ます。

午後からは、子ども達と墓前礼拝を行いました。乳児院の小さな子ども達も一緒に、お墓の掃除を行った後、讃美歌を歌い、富川前施設長からのお話を静かに聞いていたようです。参加した幼児の男の子は、「戦争でお墓の端っこが壊れてしまった」と話してくれ、小さいながらもしっかりと聞いていたのだと感心しました。（暮石の一部が神戸大空襲で欠けてしまっています。）また、お墓参りの経験も中々できない子どももいるので、そのような意味でも良い時間となったと思います。

会には間に合わなかったけれども、この機会にと遊びに来てくれた退所児もあり、思い出のカレーを食べながら、子ども同士や職員と楽しく話し帰って行きませんでした。

困った事があった時や嬉しいことがあった時だけでなく、会いたい、戻ってきたいと思える神戸真生塾でありたいと思っております。

来年の130周年も今いる子ども達と退所した子ども達・お別れした職員、そして

支えて下さっている方々と共に、創立記念日をお祝いできることを楽しみにしております。  
(沖野 世津子)



## 神戸真生塾の こどもの様子

児童養護での子ども達の毎日は、元気がいっぱい賑やかな声で溢れています。平日の朝は6時30分頃から起床。眠い目を擦りながら朝食を摂り、登校準備をして8時頃には元気に出発。高校生の中には部活動の早朝練習でもと早く登校する子どももいます。保育園は9時頃に登園。15時頃、坂の下から元気な声が聞こえてくると低学年の子ども達から順次下校してきます。まずは宿題を済ませ、おやつを食べたら皆大好きな遊びの時間。園庭でボール遊びをしたり屋内でテレビを観たりと、それぞれが自由気ままに過ごします。18時には各部屋で夕食の時間。そ

の後は順番に入浴を済ませ、就寝までの間、団欒のひと時を過ごし、21時に小学生は就寝。その後はそれまでの賑やかな雰囲気とは一転、中高生の時間が訪れます。学校での出来事やお年頃の悩み事を聞いたり、一緒に穏やかな時間を過ごし23時には中高生も就寝。また、火・木曜日の夕方は、小学4年生から中学3年生を対象に「学習塾フロンティア」という施設内塾に順番に通っています。休日は、公園や動物園にお出かけしたり、職員と個別に外出し一対一の時間を過ごすこともあります。

日々、子ども達の成長を共にして、私にもあつという間に2度目の夏がやってきました。思い返せばこの神戸真生塾で勤めはじめて子ども達と過ごす中で、たくさんの喜怒哀楽に直面してきました。子どもと一緒に楽しく笑い合う場面はもちろん、時には互いの思いが対峙する場面もあります。相手の心を丸ごと分かりあうことは非常に難しいことです。少しでも互いの思いを理解し心を通わせることが出来た時には、自分も子ども達の成長過程に携われていることを実感しやりがいを感じます。これからも子ども達の毎日に寄り添いながら安心して生活づくりに努め、一步一步大人に成長していく姿を見守っていければと思います。  
(藤田 実希)



# お食い初め

## 生後100日を迎えた 赤ちゃんへの願い

たくさんの人にお祝いされて、Mちゃんはお食い初めの日を迎えました。

可愛らしい白いドレスを着たMちゃんは、みんなに「かわいいね」「似合っているね」と言われると、にこりと笑ってとても喜んでいました。

その日はMちゃんのパパとママだけでなく、お部屋のお姉ちゃんやお友達、たくさんの方がお祝いの言葉をかけてくれました。お台所のお姉さんたちが作ってくれたお赤飯や鯛の塩焼き、煮物、色とりどりの果実を見て、他の子どもたちも珍しいものを見るようにじっと見つめていました。Mちゃんと一緒のお部屋の女の子が「Mちゃん、おめでとう！りんごさん美味しいよ」と言って、Mちゃんのお口の近くにりんごを持っていくと、Mちゃんはじっと見つめて「これは何かなあ」ときよとんとした目をしていました。たくさんの人にお祝いされたMちゃんでしたが、いつもとは違う雰

囲気にびっくりしてしまつたのか、泣き疲れていつの間にか寝てしまいました。

お食い初めは、赤ちゃんの歯が生え始める生後100日から120日後に行うお祝いの儀式です。この日を迎えることが出来たことを神様に感謝し、お赤飯や御頭つきの鯛などのごちそうを食べさせる真似をして、みんなでお祝いします。地方によっては「百日祝い」「歯固め」と呼ぶこともあるようですが、それら全て「赤ちゃんが、生涯食べることに困りませんように」と願いが込められています。

ミルクを飲むのが苦手だったMちゃん。この時期は少しみんなよりも小柄でしたが、今ではすくすく育ち、少しお姉さんになりました。今は離乳食のお粥に悪戦苦闘中ですが、いろいろなものをたくさん食べて、素敵なお姉さんになりますようにと心から願います。(大伴 鞠奈)



# どうぶつ王国に行ったよ



梅雨入り前の6月3日月曜日。今年の合同遠足は初めての場所「神戸どうぶつ王国」に決まり、乳児院の子ども達12名が参加しました。0歳児の赤ちゃんとお留守番の職員に見送られ「いつてきまあす！」子ども達はみんなわくわくドキドキそわそわ。

車に乗りきれなかったMちゃんとKちゃんは、阪急電車とポーターライナーに乗りついでいきました。電車に乗るのもまた楽しみです。電車のとっていくねん、お姉ちゃんやから」と自慢していました。

どうぶつ王国に到着した後、開園までの間ゲージの中の犬をみて「ワンワンいる」と近寄ろうと柵を乗り越えていく子どもや、犬よりも近くを通るトラックを眺めて反応する子ども、それぞれにぐずることなくゆったりとした時間を過ごしました。

入場してからは、保育者と1対1で回ります。うさぎとのふれあいコーナーでは人参などのエサをこわごわ口にいれて「食べた」と喜ぶ子ども、うさぎの口元まで持つて行きながら怖くなくなって逃げ出してしまう子ども、怖くて近寄れず遠巻きにみる子ども。様々に反応する子どもたちをなだめ、だっこして何とか写真に収めようとする職員。普段からの子ども達とのそれぞれの関わりがよく表れていて、微笑ましい姿でした。

色々な動物のショーをみて、お昼ごはんをみんなで食べて、楽しい時間は終わりです。どうぶつ王国は乳児院の子ども達には難しいのではないかと職員の心配も奇遇に終わり、子ども達のはしゃぎぶりや動物とのふれあいをみても子ども達それぞれに成長してくれているんだな、と嬉しく感じられた一日でした。

乳児院に帰ってきてからの子ども達はちよっぴり眠そうでしたが「たのしかった！」とその一言ですべてが語られていると思います。

また来年もいこうね。

(藤井 寿子)

# 2018年度 行事報告

四月	お花見 いちご狩り
五月	こどもの日 創立記念 合同遠足
六月	
七月	七夕 プール遊び
八月	納涼大会 デイキャンプ 琵琶湖キャンプ
九月	合同運動会 (市乳児連盟)
十月	ぶどう狩り 院内運動会 人形劇合同交歓会
十一月	養護子ども会 七五三 収穫感謝祭
十二月	クリスマス祝会 お餅つき
一月	お正月 節分
二月	
三月	ひなまつり
毎月	お泊り保育 お誕生日会 お食い初め



## 笑顔が飛び交う場所

園長 橋本美記代

初夏を迎え、保育園の子ども達は、広いお庭で虫探しを楽しんでいます。毎日探しているとまる虫がいる場所、幼虫がいる場所がわかり、お友だちと一緒に楽しんでいきます。すっかり園生活に慣れてクラス毎にいろいろな活動に取り組んでいます。

私はこの4月から真生きらきら保育園の園長に就任しました橋本美記代と申します。子ども達と過ごす中で、今までご家庭や園生活で培われてきた子ども達のやさしい感性を感じる場面が日々あり、ほっこりとした気持ちになります。

大きいクラスのお友だちは、小さいお友だちが泣いていたら、「どうしたの?」と声をかけたり、園庭では手をつないであげたりとやさしく自然にお世話する姿が見られます。保育室が2階の為、子ども達は園庭に出るときには、事務所の前で「いつてきます!」帰って来たら「ただいま!」と小さいクラスから大きいクラスの子も達まで毎日挨拶しています。子ども達の元気な挨拶にこちらも元気をもらっています。

保育園では毎週水曜日に園庭開放をしています。園庭で在園児と一緒に遊ぶ中いろいろな出会いがあり、在園児の子ども達も地域の子も達も一緒に職員一

同、子育てのお手伝いをさせていただきたいと思っております。地域の皆様、関係機関の皆様、どうぞよろしくお願致します。

### 子どもの様子

#### 6月の園だよりから

##### ももぐみ(二歳児)

新緑が目にも美しい季節となりました。強い日差しの中、爽やかな風が心地良く感じ、子どもたちも元気いっぱい外あそびを楽しんでいます。お砂場であそんだり、シーソーに乗ったりしています。すべり台の下のジャングルジムに入って「いない、いないばあー」をお友だちと合って、微笑ましい姿も見られます。外あそびに行く時に自分で靴を持って来て、自分で履くことをがんばっています。「ベリーして」(マジックテープを外して)「あしをいれて」:と順番に一つずつゆっくりと取り組んでいます。階段も手すりを持ち「いち・に・いち・に」と言いながら昇り降りをはげまっています。

「こひつじノート」のシール貼りが上手にできるようになってきました。シールの台紙から少しだけシールの端を外してあげると、上手につまめるようになりました。貼る場所を伝えると、そこに貼ろうとしますが、なかなか指からシールが剥がれず苦戦しています。でも、少し手伝うだけで貼れるようになりました。

制作では、「はらぺこあおむし」を作

りました。手に緑の絵の具を塗って手形をおおむしの体にしました。自分の手が緑になったのを見て不思議そうにじっと見たりしていました。「べた、べた」と言いながら一緒に楽しみました。そして、あおむしの目と足を貼りました。お部屋の中で本物のアゲハチョウの幼虫を飼ったり、チョウが出てくる絵本を読んだりしました。春という自然を感じてもらえることができたらいいなと思っています。

「じぶんでする」「いや、いや」といろいろな気持ちが出てくる時ですが、「じぶんのできた」「せいこうした」という気持ち大切に、自分で出来る事を少しずつ増やしていきたいと思っています。

星野 真由美



##### ぶどうぐみ(三歳児)

5月も終わり、いよいよ夏らしい暑さの日が増えてきました。暑くなってきたも園庭あそびが大好きな子どもたち。園庭から上がってくると「あつーい!」「お茶飲むー!」と言って、汗をかき、顔を真っ赤にしている子どももいます。

4月からほぼ毎日行ってきた外遊びですが、遊びの内容に少しずつ変化が見られます。砂場で保育教諭とままごとをしていた子どもが、友だちと一緒に遊びをして楽しむということが増えてきたように思います。

また、自分自身の身の周りのことや、毎日の流れの事などを、自分達でスムーズに行うことができるようになっていきます。進級当初は、保育教諭がお手伝いをしながら一つ一つ一緒にしていた事を、今では自分たちで順序良く動きの流れを組み立て、動く事ができています。「もうできたー!」「次何して待ってくん?」と早くできたことを嬉しそうに報告してくれており、少しずつ幼児クラスのお兄さん、お姉さんらしくかっこいい姿を見せてくれています。

遊戯室や、保育室内でものびのびと体を動かすことのできる活動や、雨を楽しみることのできるような遊びを取り入れ、雨で外遊びを行うことができなくても元気にあそべるようにしていきたいと思

岡本 拓馬  
安原 未風

新任職員紹介

乳児院



糸岡 蘭

〔職名〕 保育士

〔趣味〕 美味しい物を食べる

〔特技〕 どこでも寝ることができる

〔抱負〕 「成長できる環境を守りたい」今の自分のできることは現場を知り、考え続けること。愛をもって子どもたちと関わり、日々の小さな感動をもとに分ち合うことを大切にします。



来住 紗波

〔職名〕 管理栄養士

〔趣味〕 美術品鑑賞、エレキギター、ミュージカル鑑賞、音楽鑑賞、イラスト、旅行等

〔特技〕 細かい作業、絵を描くこと

〔抱負〕 管理栄養士として、食の観点から子ども達の成長をサポートします。毎日の食事を通じて、子ども達が楽しいひと時を過ごすことができるよう、これからも精進してまいります。

児童養護



森田 結衣

〔職名〕 保育士

〔趣味〕 ライブ参戦

〔特技〕 お茶を点てること

〔抱負〕 4月から神戸真生塾の仲間入りとなりました。少しずつ子どもたちとの関係性も出来始めましたが、まだまだな部分も沢山あり、日々研鑽を惜しまず頑張ります！



佐久間 優美

〔職名〕 保育士

〔趣味〕 読書、手芸

〔特技〕 サックス

〔抱負〕 子どもたちと一緒に過ごす時間を大切にしていきたいです。子どもたちが安心して楽しくいられるような存在となれるよう日々努力していきたいです。



杉本 莉紗

〔職名〕 栄養士

〔趣味〕 体を動かすこと

〔特技〕 料理

〔抱負〕 大学を卒業してから3年間、保育園に務めておりました。年齢は違いますが、この経験を活かし、子どもたちの成長を助けられるよう日々頑張ります。



平郡 隼

〔職名〕 ソーシャルワーカー

〔趣味〕 旅行

〔特技〕 よく食べる

〔抱負〕 神戸真生塾でお世話になり半年が経ちました。様々な人に出会い、刺激を頂く毎日でした。これからも色々な経験を通じて吸収し、成長していきたいと思っております。

自立援助ホーム



藤曲 卓馬

〔職名〕 児童指導員

〔趣味〕 登山、スポーツ観戦

〔特技〕 整理整頓

〔抱負〕 これまで児童養護施設で指導員として勤務してきた経験を生かし、子ども達の自立の手助けができる存在になれたらと思います。一日一日を大切に、一生懸命頑張ります。

保育所



伊藤 麻奈

〔職名〕 保育教諭

〔趣味〕 旅行

〔特技〕 楽器（ホルン）

〔抱負〕 これまでの経験を生かして、新しいことも学びながら一人ひとりに寄り添い、愛情をもって保育していきたいと思っています。頑張りますので宜しくお願い致します。



頼光 彩子

〔職名〕 保育教諭

〔趣味〕 料理、魚釣り

〔特技〕 フラフープ

〔抱負〕 子どもたちと過ごす1日1日を大切に、子どもたちの気持ちに寄り添いながら、笑顔忘れずに励んでまいります。これから、よろしくお願い致します。



安原 未風

〔職名〕 保育教諭

〔趣味〕 裁縫、ピアノを弾くこと

〔特技〕 バレーボール

〔抱負〕 昨日まで出来なかったことが今日出来るようになったり、様々な発見をしたり、子どもたちの成長を毎日感じています。子どもたちの気づきを大切に共成長してまいります。



# ありがとうございました

## 寄付並びに児童招待ご芳名

敬称略・五十音順

(二〇一九年二月一日～二〇一九年五月三十一日)

### 寄付金

- 神戸松蔭女子学院・福田加奈
- 宮本美恵子・鳥京
- 関西学院 宗教活動委員会
- 捜真女学校 中学部高等学部
- 神戸聖愛教会女性会
- 東洋英和女学院中高校 宗教委員会
- 家庭養護促進協会
- 日本キリスト教団 神戸教会 倉石哲也
- 神戸教員合唱団・神戸女子学院
- 宮本美恵子・住元義則・淳子
- (株)周和・日坂・勝木
- Charity Walks & Treks  
in Kansai-Meetup
- 由利与市
- 難波美智子
- 神戸市児童養護施設連盟
- チャリティティーフェスティバル
- 神戸教会教会学校
- 神戸グローバル
- 高田直美
- 綿谷栄子
- 敷田紀久子
- 國府良



### 寄付物品

- 大社貴子・P&G・植田奈緒美
- 植村明有・森岡務
- (有)ダスカジャバンクアウテモック
- (株)チュチュアンナ
- 日本缶詰びん詰 レトルト食品協会
- KOBE三宮 ひと街創り協議会

### 児童招待行事等

- 三井住友海上
- ひと街創り協議会 ガリレオクラブ
- ライオンズクラブ
- 国際協会レオクラブ
- (株)ROYAL
- 三宮センター街2丁目商店街振興組合
- 神戸学院関西学院
- オリックス宮内財団

以上



## 子どものつばき

★大雨で雨宿りしている時に「雷さんがおしっこした」だって。  
(Sくん・4歳)

★「お茶ください」「いいですよ」と一人で保育園ごっこを楽しんでいるHちゃん。  
(Hちゃん・4歳)

★楽しそうに歌いはじめ「かえりたーい♪かえれなーい♪きかするーカントリーマーム♪」カントリーマームはお菓子だよと伝えると照れていました。  
(Yちゃん・8歳)

★「今日、タンプトップ買いに行くねん！」とすごく嬉しそうに話していました。「タンクトップ」だよ。  
(Dくん・8歳)

★昼食中「世界チャンピオンってめっちゃ食べれそうやけど食べられへんねんで。」と話し「世界チャンピオン…？食品サンプルじゃない？」と聞くと「あ、間違えた！」と笑っていました。  
(Tくん・5歳)

★「この前頭打って、でんこぶできたー」と言って言い間違えに気づき可愛らしく笑っていました。「たんこぶ」だね。  
(Rちゃん・11歳)

★昼食前に布巾を絞っているとMちゃん「ソフトクリームみたい、おいしそう。」おもしろいね。  
(Kちゃん・3歳)

★食べるのが大好きなMくん。離乳食が運ばれてきたことに気付くと「マンマー！」と、満面の笑みを浮かべ大喜び♪よっぱどお腹が空いてたんだね。  
(Mくん・9ヶ月)



# 子育てホットライン(相談専用)

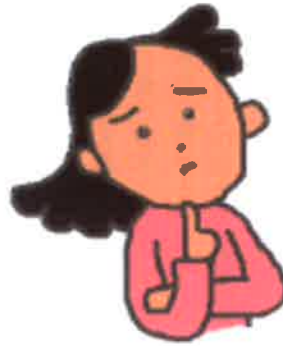
TEL:078-341-6493

年中無休午前9時～午後6時(緊急の場合は夜間も可)

神戸真生塾 子ども家庭支援センター(ロータリー子どもの家)

Homepage <http://www.rotary-kodomoioe.org/>

facebook <http://www.facebook.com/rotary.kodomoioe>



子育てに困ったら  
先ず電話相談!

## 子ども家庭支援センターロータリー子どもの家

### 2018年度実績報告

センター長 久山 啓

2018年度の相談実績は、一般相談1,906件(実人数234人)、指導委託ケース相談784件(実人数8人)、被虐待児地域見守り事業ケース相談222件(実人数5人)でした。相談の総件数は2,912件(実人数247人)となり、2017年度からは67件減となりました。また、子育て支援事業等の参加者のべ人数は6,353人となっております。相談者と参加者の総のべ人数は9,265人でした。

相談業務においては、数字としては前年度を下回りましたが一般相談だけでなく、一時保護や施設入所となるような重篤なケースを含む指導委託や被虐待見守り事業を引き続き担っております。また、虐待の第一義的な窓口である各区(要保護児童対策地域協議会)との連携や支援も増えております。

社会的養護の必要な子どもたちを施設養護から里親養育へという流れの中で、児童家庭支援センターも里親支援が業務の1つとなっております。当センターでは2018年度より神戸市から里親トレーニング事業を受託しております。本事業はまだ子どもの委託を受けていない里親

相談・利用のべ人数表 (人)

相談	電話	1,652	2,912
	来所	616	
	訪問・派遣	526	
	その他	118	
利用	野外活動	186	6,353
	子育てひろば	641	
	子育て講座	93	
	プレイルーム利用	2,793	
	その他	2,590	
合計		9,265	

に対して、講義や事例検討、ロールプレイ、実習などの研修を行い、子どもを養育するためのスキルアップを目指すものです。2018年度は2クール合計6日間の講座を実施しました。2019年度は講座に加えて、面談や実習も行い、ブラッシュアップさせていきたいと考えております。

子育て支援事業の新たな事業としては、「ハニーハニープロジェクト」を実施しました。本事業は、法人敷地内で養蜂事業を行っているNPO法人B&Fの協力を得て、地域の親子を対象に地域へ愛着や絆を育むこと、食育などを目的として行いました。虐待予防も含めた子育て支援において、地域の力は欠かせないものであり、これからも地域の活性化に寄与していきたいと思っております。

### 神戸真生塾苦情処理委員

- 苦情受付担当者 久山 啓 (子ども家庭支援センターロータリー子どもの家センター長)
- 川本 真美 (真生乳児院 家庭支援専門員)  
山口 芽久未 (真生きらきら保育園 主任保育士)  
有吉 みはる (神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員)  
上杉 徹 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)
- 苦情解決責任者 数田 紀久子 (乳児院 真生乳児院 院長)  
橋本 美紀代 (保育所 真生きらきら保育園 園長)  
竹原 裕昭 (神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員)  
森光 規之 (当法人 監事)
- 第三者委員 中村 悦子 (主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員)
- 苦情受付件数 2019年 1月から6月末まで 3件

### 編集後記

子ども達は元気いっぱい身体を動かして、職員共に毎日楽しく過ごしております。今回も皆様方に広報誌「愛」をお届けできましたことを嬉しく思います。これからも子ども達の心に寄り添い、共に成長できたと思います。今後もこの広報誌を通して、子ども達の日々の成長をお伝えしていきたいと思っております。

最後になりましたが、広報誌発刊にあたりご協力いただいた皆様、日頃よりお世話になっている皆様方へお礼申し上げます。

(福本 真弓)